作成日　2004 年 2 月 4 日
改訂日　2025 年 5 月 30 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　：サンケイ石灰硫黄合剤
供給者の会社名称，住所及び電話番号
会社名称　：サンケイ化学株式会社
住所　：〒110-0005　東京都台東区上野 7 丁目 6-11(第一下谷ビル)
担当部門　：開発部
電話番号　：03-3845-7951
ＦＡＸ番号　：03-3845-7950
緊急連絡先　：同上
整理番号　：B - 59
推奨用途及び使用上の制限　：農薬

2. 危険有害性の要約

化学品のＧＨＳ分類

物理化学的危険性	金属腐食性化学物質	：区分 1
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	：区分 4
	急性毒性(経皮)	：区分に該当しない
	急性毒性(吸入)	：分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	：区分 2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：区分 1
	呼吸器感作性	：分類できない
	皮膚感作性	：区分 1
	生殖細胞変異原性	：分類できない
	発がん性	：分類できない
	生殖毒性	：分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	：分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	：分類できない
	誤えん有害性	：分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期(急性)	：区分 3
	水生環境有害性　長期(慢性)	：分類できない

上記に記載がないものは、「区分に該当しない」か「分類できない」である。

ＧＨＳラベル要素

絵表示　：

注意喚起語　：危険

危険有害性情報　：
H290　金属腐食のおそれ
H302　飲み込むと有害
H315　皮膚刺激
H318　重篤な眼の損傷
H317　アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H402　水生生物に有害

注意書き　：【安全対策】
P234　他の容器に移し替えないこと。
P261　粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
P264　取扱い後は手をよく洗うこと。

作成日　2004 年 2 月　4 日
改訂日　2025 年 5 月 30 日

P272　汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273　環境への放出を避けること。
P280　保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面等を着用すること。

：【応急措置】
P301+P312　飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
P302+P352　皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
P305+P351+P338　眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P310　直ちに医師に連絡すること。
P321　特別な処置が必要である(4.応急措置を参照)。
P330　口をすすぐこと。
P333+P313　皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
P362+P364　汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P390　物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

：【保管】
P406　耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

：【廃棄】
P501　内容物や容器は、当該規則に従い都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して、適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：混合物

化学名又は一般名	含有量	CAS No.	化管法管理番号	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
多硫化カルシウム	27.5%	1344-81-6	ー	ー	ー
チオ硫酸カルシウム、水等	72.5%	ー	ー	ー	ー

4. 応急措置

吸入した場合　：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
異常が続く場合は、速やかに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合　：直ちに石けんで良く洗い落とすこと。
作業後は衣服等を交換し、着用していた衣服は他の物と分けて洗濯すること。
異常があれば速やかに医師の手当てを受けること。

眼に入った場合　：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合　：水でよく口の中を洗浄する。
無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤　：水、泡、粉末、二酸化炭素

使ってはならない消火剤　：特になし

火災時の特有の危険有害性　：特になし

特有の消火方法　：速やかに火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。
容器及び周辺に散水して冷却する。
消火作業は風上から行う。

作成日　2004 年 2 月　4 日
改訂日　2025 年 5 月 30 日

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置
：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
漏出時の処理を行う際には保護具を着用する。

環境に対する注意事項　：漏出液を直接に河川や下水に流してはいけない。
河川、養殖池等に流れ込まないように注意すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
：漏出液は吸着材(オガクズ、土砂等)に吸着させ掃き集める。
密封できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い　技術的対策　：「８．ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項　：ラベルをよく読む。記載以外に使用しない。
取扱いは換気の良い場所で行い、作業場の換気は十分行う。
取扱いの都度、容器を密閉する。
強アルカリ性であるため眼、皮膚、衣類に付けないこと。
適切な保護具を着用すること。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
酸性物質との混用、混入は絶対避けること。(有害な硫化水素が発生する)
高温、火気の近くで取扱ってはならない。
局所排気・全体排気　：「８．ばく露防止及び保護措置」を参照
接触回避　：「10．安定性及び反応性」を参照
衛生対策　：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをすること。

保管　安全な保管条件　：食物、飲料等と区別し、火気、直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。
小児の手の届く所へ置かない。
安全な容器包装材料　：国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策　：屋内で取扱う場合には、全体換気装置を設置する。
できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
取扱場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具
呼吸用保護具　：農薬用マスク
手の保護具　：不浸透性手袋
眼、顔面の保護具　：保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具　：長ズボン・長袖の作業衣など

9. 物理的及び化学的性質

物理状態　：水溶性液体
色　：赤褐色
臭い　：腐乱臭
融点／凝固点　：情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲　：情報なし
可燃性　：情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界
：情報なし
引火点　：情報なし
自然発火点　：情報なし

作成日　2004 年 2 月　4 日
改訂日　2025 年 5 月 30 日

分解温度	：	情報なし
ｐＨ	：	>11(1%水溶液)
動粘性率	：	情報なし
溶解度	：	情報なし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	：	情報なし
蒸気圧	：	情報なし
密度及び／又は相対密度	：	1.28(20℃)
相対ガス密度	：	情報なし
粒子特性	：	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	：	情報なし
化学的安定性	：	通常の使用では安定
危険有害反応可能性	：	酸性物質との混合で有害ガスの発生
避けるべき条件	：	酸性物質との混用、混入
混触危険物質	：	酸性物質
危険有害な分解生成物	：	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口	：	区分 4 ラット♂　422mg/kg、♀ 603mg/kg マウス♂♀　332mg/kg
経皮	：	区分に該当しない ラット♂♀　>2000mg/kg
吸入	：	データが不足しているため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	：	区分 2 ウサギ　　軽度の刺激性
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	区分 1 ウサギ　　軽度の刺激性(100 倍希釈液)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性	：	データが不足しているため分類できない。
皮膚感作性	：	区分 1 モルモット　陽性
生殖細胞変異原性	：	データが不十分なため分類できない。
発がん性	：	データが不十分なため分類できない。
生殖毒性	：	データが不十分なため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	：	データが不十分なため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	：	データが不十分なため分類できない。
誤えん有害性	：	データが不十分なため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	：	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	：	分類できない

作成日　2004 年 2 月　4 日
改訂日　2025 年 5 月 30 日

生態毒性

魚(コイ)	: LC50(96hr)	393ppm
甲殻類(オオミジンコ)	: LC50(48hr)	16.5ppm
藻類	: EbC50 (72hr)	119ppm

残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壌中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし
その他	: 蚕に対して影響がある。

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物	: 関連法規並びに地方自治体の規則に従い、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に廃棄すること。
汚染容器及び包装	: 関連法規並びに地方自治体の規則に従って適切に処理を行うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制	国連番号	: 該当しない
	品名	: 該当しない
	国連分類	: 該当しない
	容器等級	: 該当しない
国内規制	陸上輸送	: 道路法等の規定に従う。
	海上輸送	: 船舶安全法の規定に従う。
	航空輸送	: 航空法の規定に従う。
特別の安全対策		: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 車両、船舶には保護具(手袋、メガネ、マスク等)を常備する他、緊急時の処理に必要な消化器、工具等を備えておく。

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない
労働安全衛生法	: 該当しない
毒劇物取締法	: 該当しない
化審法	: 該当しない
消防法	: 該当しない
農薬取締法	: 登録番号　第 142 号

16. その他の情報

参考文献

・JIS Z 7252：2019　GHS に基づく化学物質等の分類方法
・JIS Z 7253：2019　GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 ― ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE-CHRIP)

この製品安全データシートは現時点で入手可能な資料等をもとに作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証も成すものではありません。また注意事項は、通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いを行なう場合には自らの責任において用途に適した処置を講ずることが必要であることを理解した上で活用して下さい。